

レク・リーダー研修会における教育効果に関する一考察

—とくにその態度の変化について—

東海大学 高橋 和 敏 大北 文 生
 野間口 英 敏 川 向 妙 子
 北里大学 鈴木 秀 雄

I 研究の目的

レクリエーションに限らず、一般に教育効果は、速効的ではない、長い目でみなければわからないといわれている。

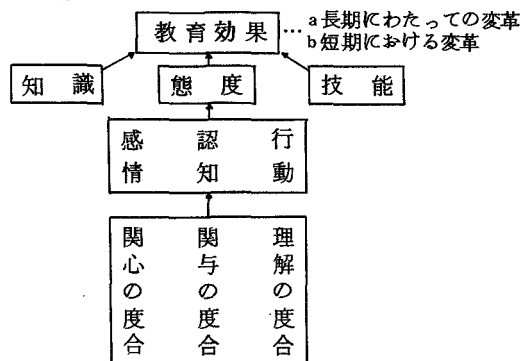
しかし、だからといって、放っておいてよいものでもない。何らかの手だてを用いて、効果を知る必要がある。

従来までは、チェックリスト、テスト、感想文評価用紙、反省会などの形で行なわれているのが多いようである。しかし、このような方法では、多分に他の要素が含まれるし、個人が、どの程度変わったかということの目安をつかむことは、困難である。

そこで、何らか、量化する方法で、知る必要があると考えた。

教育効果の評価観点としては、知識面、技能面、態度面などが考えられるが、本研究では、そのうち態度面を中心に、検討を試みようとしたものである。

II 論理の図式



II 研究の方法

①関心度、理解度、関与度をみるための問題設定をし、質問用紙を作成した。(調査用紙参照)

②問題は以下のように10問とした。

問 2) ~ 5) → 関心度

1), 6) → 関与度

7a) ~ 7d) → 理解度

③解答を量化する方法として、各項、7段階尺度法を使用した。

④解答の評価は、7を最も積極的に好ましいと考えた。

⑤上記質問紙で、研修前と研修後の2回解答をしてもらった。

⑥整理の方法として、前後の比較検討を以下の三点で行なった。

<A> 男女別年齢別の平均得点による比較

 男女別勤続年数による比較

<C> 個人の変化度の検討

但し、質問1)は、研修前のみであるので比較を行なわなかった。

⑦対象者は、H労働組合青年婦人部主催のレクリエーションリーダー養成研修会参加者341名である。

この中で、K地区研修会参加者、男子25名、女子24名、計49名についての結果を今回は、報告する。

⑧測定の期日は、1973年11月22日～1974年1月27日である。

調査用紙

1. あなたは、今までに組合のレクリエーション行事に、どの程度参加してきたと思いますか。

1	2	3	4	5	6	7
---	---	---	---	---	---	---

参加しない ←————→ 参加する

2. 新聞や雑誌に、レクリエーションの記事がのっていたら、あなたはどの程度注意して読みますか。

1	2	3	4	5	6	7
---	---	---	---	---	---	---

読まない ←————→ 読む

3. あなたは、レクリエーションに関して、500円以下の本を本屋でみかけたら、どの程度買いたいと思いますか。

1	2	3	4	5	6	7
---	---	---	---	---	---	---

買わない ←————→ 買う

4. あなたが、同僚から組合のレクリエーション行事について尋ねられたら、どの程度すずんで説明しますか。

1	2	3	4	5	6	7
---	---	---	---	---	---	---

説明しない ←————→ 説明する

5. あなたが友人との先約があったとき、たまたまレク・リーダーの会合が重なったとしたら、どの程度その会合に出席しますか。

1	2	3	4	5	6	7
---	---	---	---	---	---	---

出席しない ←————→ 出席する

6. あなたは、組合のレク活動にとって、どの程度大切な人物だとあなた自身思いますか。

1	2	3	4	5	6	7
---	---	---	---	---	---	---

大切ではない ←————→ 大切だ

7. 次のような意見に、あなたはどの程度賛成しますか。

7 a. レクリエーションは遊びであり、個人が好きなきに、好きなことをやればよいのだから、組合では、とくに考える必要はない。

1	2	3	4	5	6	7
---	---	---	---	---	---	---

反対 ←————→ 賛成

7 b. レクリエーションは、現代人にとってかせないものであるから、組合はもちろん、すべての人がやらなければならない。

1	2	3	4	5	6	7
---	---	---	---	---	---	---

反対 ←————→ 賛成

7 c. レクリエーションは余暇に楽しむことだから、余暇のないものにとっては、どうしようもない。

1	2	3	4	5	6	7
---	---	---	---	---	---	---

反対 ←————→ 賛成

7 d. レクリエーションは、たとえお金や暇が少なくとも、創意工夫によって楽しむことができる。

1	2	3	4	5	6	7
---	---	---	---	---	---	---

反対 ←————→ 賛成

Ⅳ 結果および考察

目の平均点を、研修前（Ⅰ回目）、研修後（Ⅱ回目）について、整理したものである。男子についてみると、質問 1）～6）に

< A > 男女年令別にみた、各項目の得点

表 1、表 2 は、男女年令別にみた、各項目

表 1 年令別にみた各項目得点（男）

項 目	年 令	18才	20才	22才	24才	全体
		19才	21才	23才	25才	
2. 新聞や雑誌に、レクリエーションの記事がのっていたら、あなたはどの程度注意してみますか。	Ⅰ	2.5	3.7	3.5	4.8	3.68
	Ⅱ	3.0	4.3	3.6	4.5	3.88
3. あなたは、レクリエーションに関して、500円以下の本を本屋でみかけたら、どの程度買いたいと思いますか。	Ⅰ	2.5	3.4	2.5	3.0	2.84
	Ⅱ	3.0	3.4	2.4	3.3	2.88
4. あなたが、同僚から組合のレクリエーション行事について尋ねられたら、どの程度すすんで説明しますか。	Ⅰ	4.5	4.9	4.8	5.5	4.92
	Ⅱ	3.0	5.3	4.3	6.0	4.76
5. あなたが友人との先約があったとき、たまたまレク・リーダーの会合が重なったとしたら、どの程度その会合に出席しますか。	Ⅰ	3.5	4.7	4.3	4.5	4.36
	Ⅱ	3.5	5.3	4.3	4.0	4.44
6. あなたは、組合のレク活動にとって、どの程度大切な人物だとあなた自身思いますか。	Ⅰ	2.0	4.4	4.4	4.3	4.20
	Ⅱ	2.5	4.7	4.2	5.0	4.32
7 a. レクリエーションは遊びであり、個人が好きなきに、好きなことをやればよいのだから、組合では、とくに考える必要はない。	Ⅰ	6.5	5.7	5.9	5.8	5.88
	Ⅱ	6.5	5.9	5.8	6.8	6.00
7 b. レクリエーションは、現代人にとってかせないものであるから、組合はもちろん、すべての人がやらなければならない。	Ⅰ	6.0	5.6	5.3	6.3	5.56
	Ⅱ	4.5	5.6	5.3	6.3	5.44
7 c. レクリエーションは余暇に楽しむことだから、余暇のないものにとっては、どうしようもない。	Ⅰ	6.5	5.9	5.7	6.3	5.88
	Ⅱ	6.5	5.6	5.9	5.5	5.80
7 d. レクリエーションは、たとえお金や暇が少なくとも、創意工夫によって楽しむことができる。	Ⅰ	7.0	6.6	6.5	6.8	6.60
	Ⅱ	6.5	6.9	6.0	6.8	6.40
1. あなたは、今までに組合のレクリエーション行事に、どの程度参加してきたと思いますか。	Ⅰ	2.5	4.9	3.9	6.0	4.40

ついては、年齢が高くなるにつれて、やや高い得点を示し7a)~7d)では、逆になっている傾向を示している。全体的には、1)

~6)に低い点がみられ、7a)~7d)は高い点を示している。

すなわち、関心度および、関与度は普通

表2 年齢別にみた各項目得点(女)

項 目	年 令	18才	20才	22才	全体
		19才	21才	23才	
2. 新聞や雑誌に、レクリエーションの記事がのっていたら、あなたはどの程度注意して読みますか。	I	3.9	3.5	3.0	3.63
	II	4.3	4.0	4.0	4.13
3. あなたは、レクリエーションに関して、500円以下の本を本屋でみかけたら、どの程度買いたいと思いますか。	I	3.2	3.6	2.5	3.33
	II	3.9	4.4	2.3	3.92
4. あなたが、同僚から組合のレクリエーション行事について尋ねられたら、どの程度すすんで説明しますか。	I	4.4	4.9	3.0	4.54
	II	4.4	4.7	3.7	4.46
5. あなたが友人との先約があったとき、たまたまレク・リーダーの会合が重なったとしたら、どの程度その会合に出席しますか。	I	4.6	4.7	1.0	4.38
	II	4.8	4.7	2.3	4.46
6. あなたは、組合のレク活動にとって、どの程度大切な人物だとあなた自身思いますか。	I	3.5	4.6	2.5	4.00
	II	3.5	5.3	3.0	4.25
7 a. レクリエーションは遊びであり、個人が好きなきに、好きなことをやればよいのだから、組合では、とくに考える必要はない。	I	6.3	6.2	4.5	6.08
	II	5.9	5.9	5.3	5.83
7 b. レクリエーションは、現代人にとってかせないものであるから、組合はもちろん、すべての人がやらなければならない。	I	5.4	5.6	4.5	5.42
	II	5.3	5.5	3.7	5.21
7 c. レクリエーションは余暇に楽しむことだから、余暇のないものにとっては、どうしようもない。	I	6.0	6.3	4.5	6.04
	II	6.0	5.9	5.3	5.88
7 d. レクリエーションは、たとえお金や暇が少なくとも、創意工夫によって楽しむことができる。	I	6.4	6.6	6.0	6.46
	II	6.4	6.1	6.0	6.21
1. あなたは、今までに組合のレクリエーション行事に、どの程度参加してきたと思いますか。	I	3.1	4.0	3.5	3.58

くらいであり、理解度については、より好ましい考え方をしていると解釈できるようだ。

一方、女子についてみると、男子の逆で年齢が低くなるに従い高い得点である。しかし、項目別の得点では、男子同様、1)

～6)が低く7a)～7d)が高い結果であった。

研修前(I)と研修後(II)の得点を比較してみると、男、女、年齢別ともに、ほとんど大きな差はみることができなかった。

表3 全体の各項目得点

項 目	前 後	
	I 回 目	II 回 目
2. 新聞や雑誌に、レクリエーションの記事がのっていたら、あなたはどの程度注意して読みますか。	3.66	4.00
3. あなたは、レクリエーションに関して、500円以下の本を本屋でみかけたら、どの程度買いたいと思いますか。	3.08	3.39
4. あなたが、同僚から組合のレクリエーション行事について尋ねられたら、どの程度すすんで説明しますか。	4.73	4.61
5. あなたが友人との先約があったとき、たまたまレク・リーダーの会合が重なったとしたら、どの程度その会合に出席しますか。	4.37	4.45
6. あなたは、組合のレク活動にとって、どの程度大切な人物だとあなた自身思いますか。	4.10	4.29
7 a. レクリエーションは遊びであり、個人が好きなときに、好きなことをやればよいのだから、組合では、とくに考える必要はない。	5.98	5.92
7 b. レクリエーションは、現代人にとってかせないものであるから、組合はもちろん、すべての人がやらなければならない。	5.49	5.33
7 c. レクリエーションは余暇に楽しむことだから、余暇のないものにとっては、どうしようもない。	5.96	5.84
7 d. レクリエーションは、たとえお金や暇が少なくとも、創意工夫によって楽しむことができる。	6.53	6.51

 勤続年数別にみた各項目の得点

表3に示したものが男女勤続年数別に示した各質問項目での解答点の平均値である。

なお、女子は、2年、4年には該当者がいなかった。

男子についてみると、質問2)～6)では勤続年数の長い方が、高い値を示し、7a)

～7d)では、短い方が高くなっている。女子の方は、全項目について、勤続年数の短い方が、高い値を示している。

なお、研修前後を比較してみると、年齢別と同じく、明らかな、差をみる事が、できなかった。

表4 勤続年数別にみた各項目得点

項 目	勤 務 年 数					
		1年未満	2年	3年	4年	5年以上
2. 新聞や雑誌に、レクリエーションの記事がのっていたら、あなたはどの程度注意して読みますか。	男	1.0	7.0	3.2	3.9	3.8
	女	3.8		3.8		2.8
3. あなたは、レクリエーションに関して、500円以下の本を本屋でみかけたら、どの程度買いたいと思いますか。	男	1.0	7.0	2.5	2.8	2.9
	女	3.0		4.1		2.3
4. あなたが、同僚から組合のレクリエーション行事について尋ねられたら、どの程度すすんで説明しますか。	男	4.0	7.0	4.3	4.9	5.2
	女	4.6		4.7		5.5
5. あなたが友人との先約があったとき、たまたまレク・リーダーの会合が重なったとしたら、どの程度その会合に出席しますか。	男	1.0	4.0	4.5	4.9	4.1
	女	4.7		4.7		3.0
6. あなたは、組合のレク活動にとって、どの程度大切な人物だとあなた自身思いますか。	男	2.0	1.0	4.3	4.1	4.7
	女	3.7		4.3		4.0
7 a. レクリエーションは遊びであり、個人が好きなきに、好きなことをやればよいのだから、組合では、とくに考える必要はない。	男	7.0	4.0	5.7	6.0	6.1
	女	6.1		6.0		5.0
7 b. レクリエーションは、現代人にとってかせないものであるから、組合はもちろん、すべての人がやらなければならない。	男	7.0	4.0	6.3	4.8	5.7
	女	5.2		5.7		5.3
7 c. レクリエーションは余暇に楽しむことだから、余暇のないものにとっては、どうしようもない。	男	7.0	7.0	5.8	5.4	6.0
	女	6.1		6.4		4.0
7 d. レクリエーションは、たとえお金や暇が少なくとも、創意工夫によって楽しむことができる。	男	7.0	7.0	6.5	6.1	6.8
	女	6.4		6.8		5.8

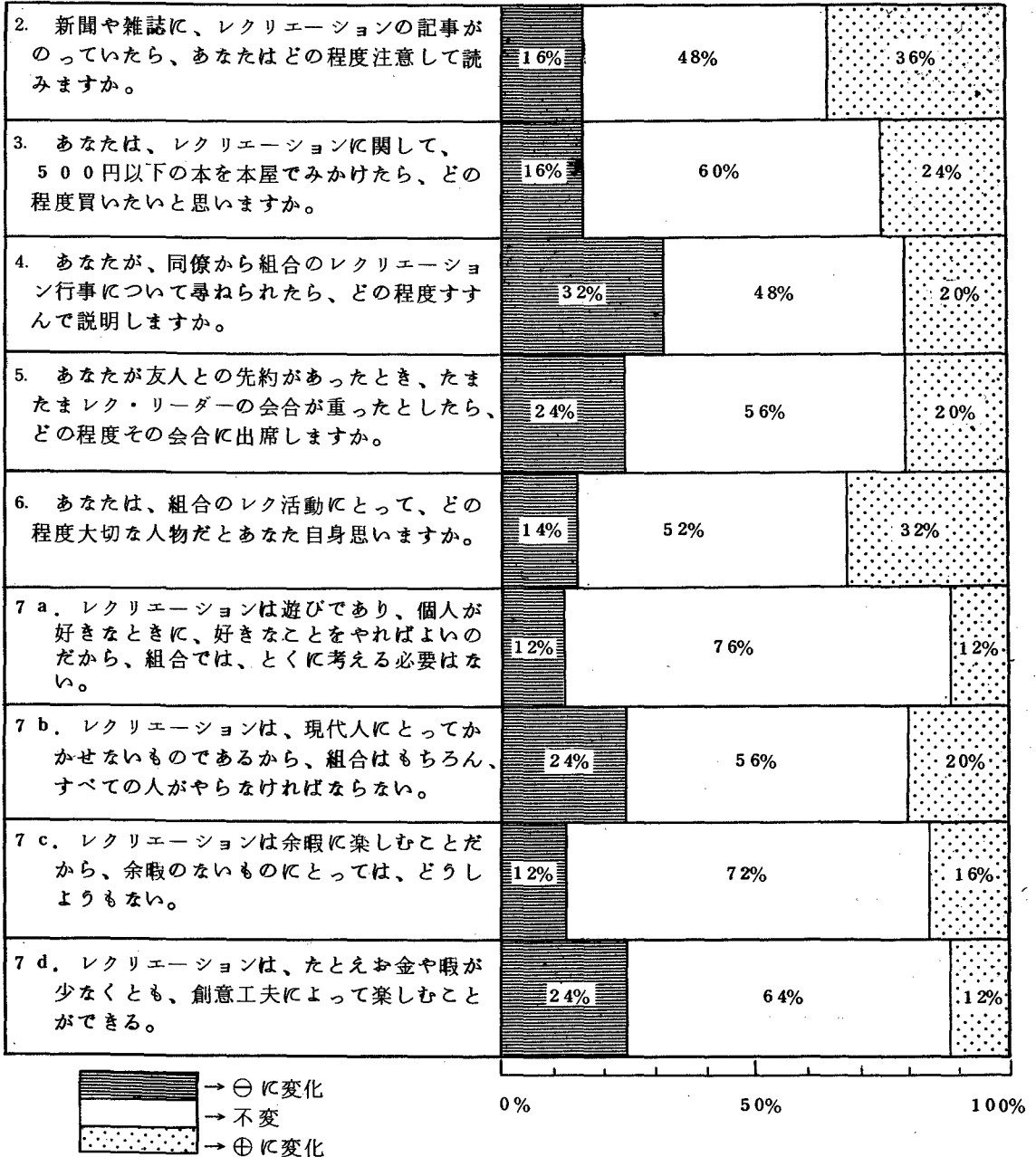
<C> 個人の変化度の結果

変化度は、研修前に行なった時、2)の質問に[4]と答えた人が、研修後に行なった時には、例えば[5]にかわっていたとしたら「プラス1度」とし、逆に[3]であつたら

「マイナス1度」、前後かわってない人は、「不変」というようなかたちで、整理したわけである。図1は、男子のもの、図2は、女子、図3は、全体のものである。

その結果、図に示されるごとく全体的には各

図-1 変化度 (男)



項目とも、「不変」が50パーセント以上である。しかし、個々の項目についてみると、プラスマイナスに変化が大きいものがあった。

図1の男子では、2)の項目で、プラスに36パーセント 6)の32パーセント

4)でマイナスに32パーセント。

図2の女子は、項目2),3)で40パーセント以上プラスに変化という大きい値を示している。

図-2 変化度 (女)

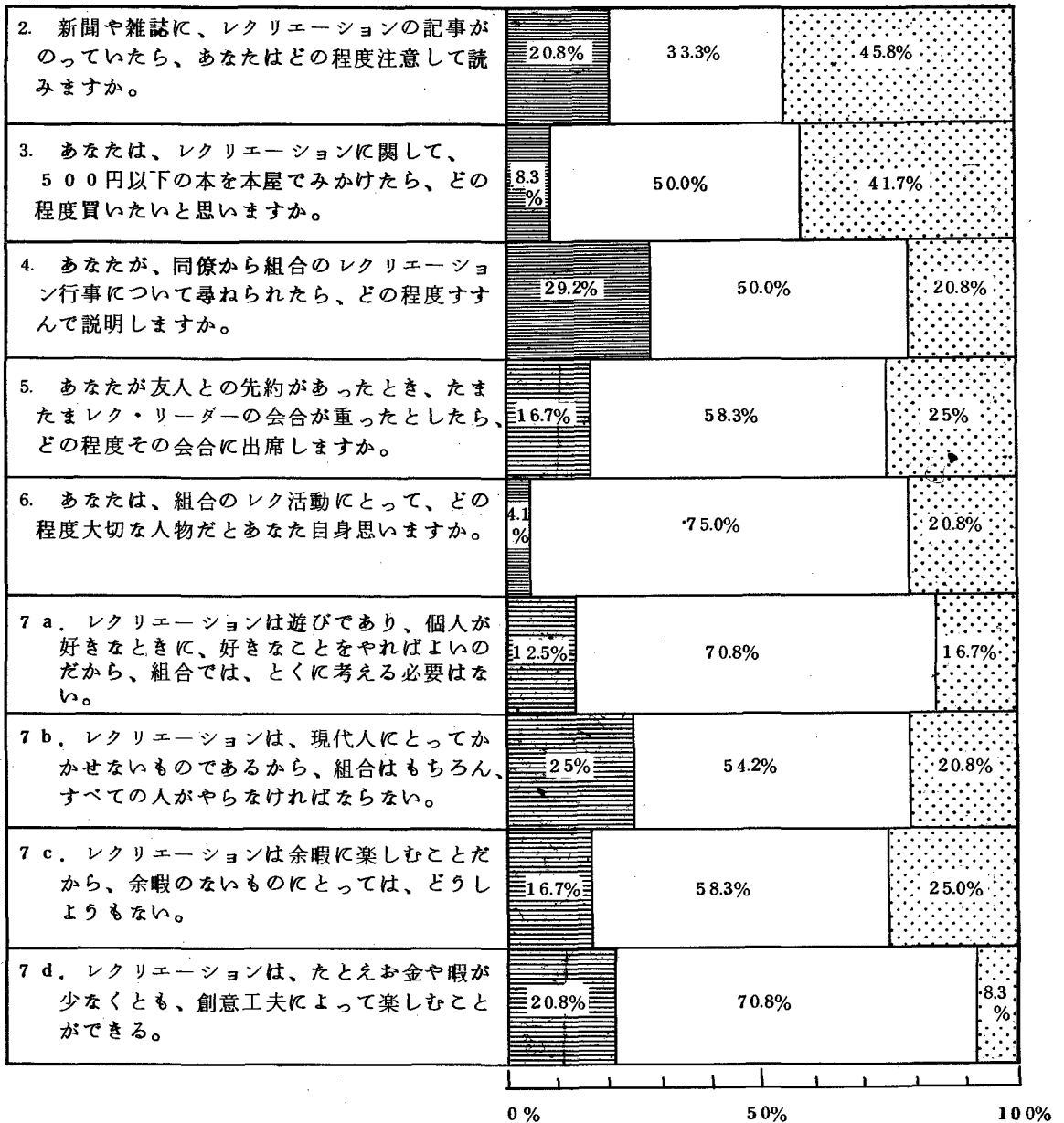
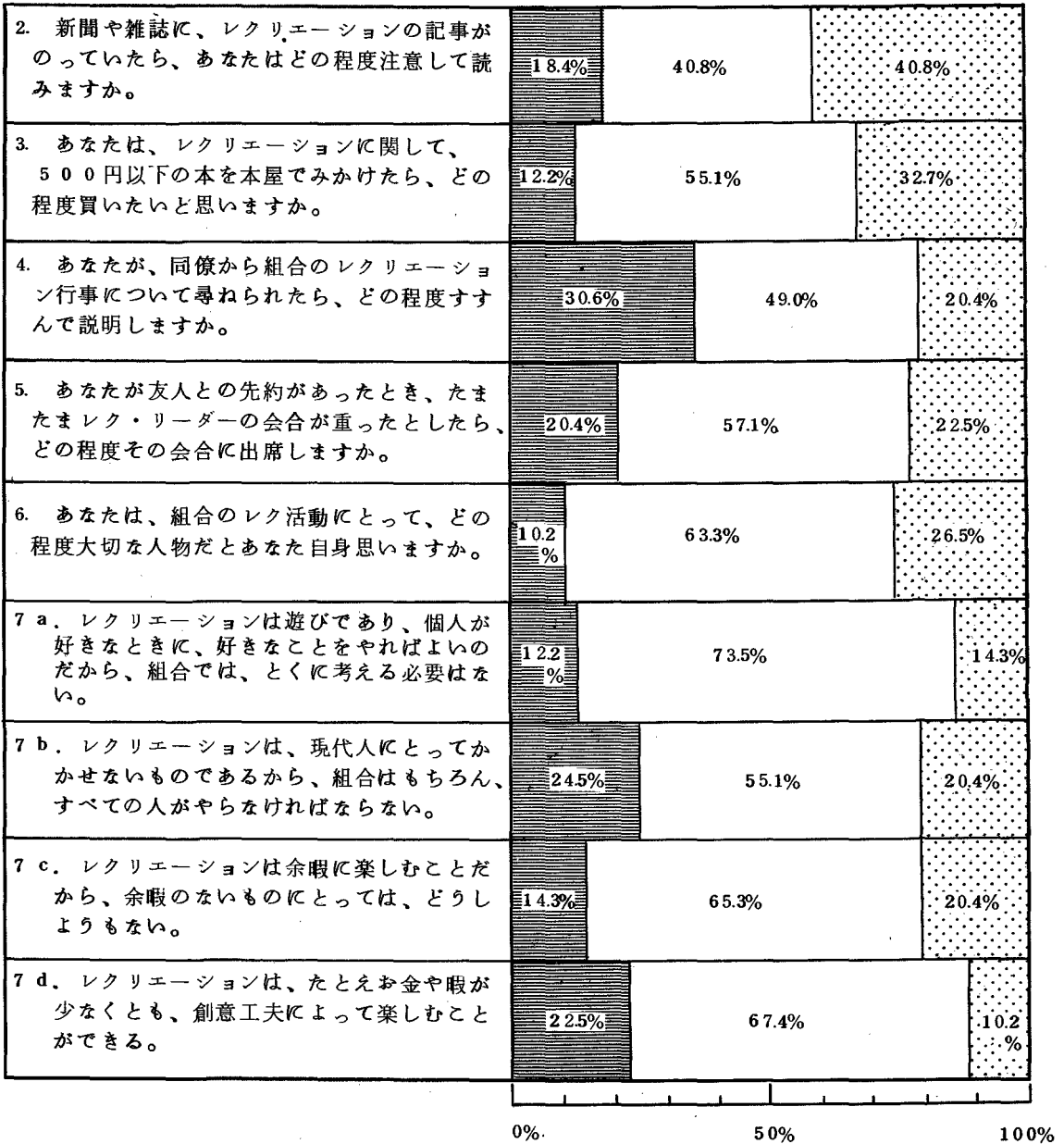


図-3 変化度 (全体)



V ま と め

今回、レクリエーションの研修会での教育効果をみるひとつの手だてとして、態度の変化度合に着目し、関心度、関与度、理解度について、独自の質問項目を設定し、それに対する解答を7段階尺度法を用いて、量化する試みを行なったわけであるが、短期（1泊2日）の研修会、会社の組合の研修会であるなどの条件から考えあわせると、期待したほどの結果を得ることができなかったようである。

しかし、今回の資料からも、個人の変化度合

を整理した結果では、関心の項目に、全体の半数近くが、変化をあらわしている。

すなわち、今後レクリエーションに、かかわりを持つようとする気持で、より強くなっているということもできる。

なお、今回は、K地区のみの結果であるので分析を残している他の地区および全体をまとめて多くのデータで、検討をしたい。

又、質問項目、内容などに、多くの研究課題があるので、今後、引続き、関連研究をすすめて行きたい。